

ランチョンセミナー 21 (LS21)

日時：2026年4月10日(金) 12:00~13:00

会場：Room 11 会議室1 (マリンメッセ福岡B館)

バイオシミラーと歩む これからの網膜硝子体診療



座長 辻川 明孝先生 京都大学大学院医学研究科 眼科学 教授

現在、網膜硝子体疾患の治療において抗VEGF薬は不可欠な治療薬となっています。一方で、高価なバイオ医薬品は国民医療費に大きな影響を及ぼしており、滲出性加齢黄斑変性など長期治療を要する疾患では、患者さんの自己負担が治療継続の障壁となっているのが現状です。このような背景のもと、本年1月にアフリベルセプト2mgのバイオシミラーが発売され、臨床現場および医療経済の両面から大きな期待が寄せられています。

本セミナーでは、「バイオシミラーと歩むこれからの網膜硝子体診療」をテーマに、網膜硝子体診療ならびに医療経済に精通されている岐阜大学の久富先生、ならびに、海外におけるバイオシミラーの実情に造詣の深いLotus Eye HospitalのSharma先生をお招きし、ご講演いただきます。

本セミナーを通じて、バイオシミラー時代における網膜硝子体診療の将来像について、皆様とともに考える機会となれば幸いです。多数のご参加を心よりお待ちしております。



講演 1

抗VEGF薬バイオシミラーの 発展と意義

久富 智朗先生
岐阜大学医学部 眼科学教室 教授



講演 2

Biosimilars in Retinal Disease: Evidence Is Clear—Are We?

Ashish Sharma先生
Department of Vitreoretina, Lotus Eye Hospital and Institute, Coimbatore, Tamil Nadu, India

ZZ0500A26A